

あかふじ

ニュース

創刊号

発行 平成20年2月
山梨県消防防災航空隊



目次

あいさつ	1
発行にあたり	2
担当員紹介	3
山梨県消防防災航空隊の歴史と隊員	4
隊員研修・自隊訓練回数・過去の災害件数	6
平成19年度(4月～12月)訓練参加活動内容	7
航空隊の有効活用・事例紹介	10

山梨県ホームページ

<http://www.pref.yamanashi.jp>

山梨県消防防災航空隊メールアドレス

bousai-kokuu@pref.yamanashi.lg.jp

あ い さ つ

消防関係者の皆様には日頃から、消防防災航空隊の運営に多大なご理解とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、近年、社会経済情勢の変化に伴い、災害や事故の態様は益々複雑多様化、大規模化の傾向にあり、昨年も3月の能登半島地震や7月の新潟県中越沖地震により甚大な被害をもたらしたことは記憶に新しいところであります。

本県では、ここしばらくこのような災害は発生しておりませんが、切迫性が指摘されている東海地震をはじめ富士山噴火など大規模災害の発生も懸念されており、県民の生命、身体及び財産を守る消防の使命は、ますます重要なものとなってきており、併せて地域防災力のさらなる強化が求められております。このようなことから、県ではこれまでも東海地震被害想定調査の公表、災害時要援護者対策を含めた山梨県災害時避難対策指針の策定、国や市町村、防災関係機関や自主防災組織等とも連携した地震防災訓練や各種図上訓練の実施、更に防災チェックシートの全戸配布や県のホームページへの防災ポータル構築など、県民の防災意識の高揚に努めております。

一方、昨年9月以来、市町村や学識経験者、消防関係者等で構成する「山梨県消防力強化検討委員会」を設置し、本県の消防の広域化など消防力の強化について検討するため、現在様々な観点から議論を重ねているところですが、本県の消防の充実強化に向けて、早期に具体的な方針をとりまとめて参りたいと考えております。また、消防学校につきましても、明年度は建て替えに向けて必要な機能や規模、設備などについて具体的な検討に着手して参るなど、各般にわたり積極的な施策を展開しているところであります。

こうした中において、当消防防災ヘリコプター「あかふじ」は各消防本部をはじめ防災関係機関の皆様とより連携を密にし、安心、安全な地域社会の構築に向け全力をあげて取り組んで参りたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

山 梨 県 総 務 部 次 長

(消防防災課長事務取扱) 笹本 勝相

発行にあたり

平素から山梨県消防防災航空隊の業務に対しまして、ご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、当消防防災航空隊は、平成7年4月1日に発足し、同年4月26日に消防防災ヘリコプター「あかふじ」の運航を開始し、今年で13年目を迎えました。

この間、山岳救助や捜索、救急搬送、林野火災防御など、県民生活の安全確保のため幅広く活動して参りました。

運航を開始してからこれまでに、3,700余時間の飛行を行ってきておりますが、お蔭をもちまして、特に事故等なく安全に運航してきており、これからも職員一同、安全運航を第一として取り組んで参りたいと考えております。

緊急運航につきましては、隊発足時からこれまでに、救助事案が361件、救急搬送が110件、林野火災防御が89件、その他65件となっており、特に山岳救助等の救助事案及び救急搬送が増加傾向にあります。

隊員は、厳しい現場においても、安全に的確、適切な対応がとれるよう日々実践さながらの訓練を行っており、各消防本部等との緊密な連携を図るため合同訓練も積極的に実施しております。

また、大規模地震等の自然災害を想定しての情報収集活動としてのヘリテレ訓練や物資搬送・投入訓練なども定期的に行っております。

ヘリコプターは、耐空証明検査等の点検整備で運航できない期間がありますが、その場合には応援協定を結んでいる埼玉県、長野県、群馬県、静岡県、新潟県など、近隣の防災ヘリと連携を図り対応することとしております。

今後におきましても、当消防防災航空隊は県民の安全・安心の確保のため全力を傾注して任務を遂行して参りますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

なお、この度、「あかふじニュース」を発行いたしました。今後定期的に発行し、当消防防災航空隊の活動状況等をお知らせしたいと考えておりますので、業務の参考にして頂ければ幸甚であります。

山梨県消防防災航空隊

室長 清水 勇

消防防災航空隊クルー紹介



隊長 宮下 光夫
(甲府地区消防本部)



副隊長 浅野 浩一
(南アルプス市消防本部)



副隊長 関口 拓治
(東山梨消防本部)



隊員 藤森 茂樹
(峡北消防本部)



隊員 志村 直彦
(富士五湖消防本部)



隊員 久次米 大介
(峡南消防本部)



隊員 望月 信介
(甲府地区消防本部)



隊員 坂田 充
(都留市消防本部)

運航管理



操縦士 前田 光明



操縦士 高松 進



操縦士 佐藤 公彦



操縦士 渡邊 正志



操縦士 鈴木 誠



操縦士 本田 勝也



運航管理 坂本 由紀子



整備士 金沢 賢治



整備士 横山 由洋



整備士 布施 達也



整備士 内野 譲司



整備士 縄本 周司



整備士 棚橋 考正



整備士 佐古 洋一

山梨県消防防災航空隊の歴史

活動内容の抜粋と歴代航空隊員の紹介

平成 6年10月 発隊事前研修等

【平成7年4月】 山梨県防災航空隊発隊

- 7月26日 初出動、山岳救助（農鳥岳付近）男性1名救助
- 11月3日 山林火災（大月市）で消火活動を4回散水実施
- 11月19日 富士山での初救助活動

【平成8年】

- 4月 北岳で登山中滑落した男性1名を救出
- 12月 富士山7合目付近で滑落した学生1名と会社員1名を救出

【平成9年】

- 3月 広域航空消防応援出動により初県外活動
群馬県安中市御岳山での山林火災（18回散水実施）
- 3月 甲州市勝沼町 高尾山 山林火災3日間活動
（「あかふじ」計108回散水実施）
応援機：計8機（自衛隊、東京消防庁、埼玉県防災航空隊
川崎市消防局、警察など）

【平成10年】

- 9月 「1000時間航空無事故」達成
- 7月 日本航空学園から秋田空港に向け飛行中のグライダーが
八ヶ岳に墜落、捜索活動実施
- 8月 埼玉県本田空港から福井空港に向け飛行中の
小型機が消息不明となり2日間捜索活動実施

【平成11年】

- 6月 南アルプス市芦安 野呂川に転落した工事車両の運転者1名救出
- 9月 南アルプス市芦安 野呂川の増水で取り残された3名救出

【平成12年】

- 1月 甲府市内で発生した火災により熱傷した男性1名を県立中央病院から立川国立病院まで転院搬送
- 3月 大月市 林宝山 林野火災発生に伴い消防庁にヘリコプターの広域応援要請
応援機：長野県「アルプス」埼玉県「あらかわ」

【平成6年10月配属】

1期

隊長 小沢 等（甲府地区）
副隊長 渡邊 松雄（東山梨）
副隊長 薦木 正文（大月市）
隊員 細入 理文（峡北）
保坂 和利（南アルプス市）
相沢 茂広（峡南）
武藤 隆春（富士五湖）
萩原 正己（甲府地区）

【平成9年4月配属】

2期

副隊長 貴家 悟（富士五湖）
副隊長 小澤 政仁（峡北）
隊員 市川 修（峡南）
日原 仁司（東山梨）

【平成10年4月配属】

3期

隊長 望月 眞仁（甲府地区）
隊員 山口 洋（都留市）
伊藤 利夫（甲府地区）
柿嶋 秋人（笛吹市）

5月	新潟県・長野県・群馬県と相互応援協定締結		
【平成13年】			
4月	長野県長野市 林野火災 64回散水		
11月	広範囲熱傷の男性1名を山梨大学医学部附属病院から 杏林大学附属病院まで転院搬送		
12月	静岡県と相互応援協定締結		
【平成14年】			
3月	「2000時間航空無事故」達成		
4月	発隊後初、救急救命士配置		
6月	南部町に小型機墜落、捜索活動実施		
7月	埼玉県と相互応援協定締結		
【平成15年】			
6月	長野県上水内郡 山岳救助 男性1名救出		
8月	「あかふじ」運航マニュアル見直し		
【平成16年】			
4月	消防組織法の一部改正に伴い名称を「防災航空隊」 から「消防防災航空隊」に変更		
7月	新潟・福島集中豪雨に緊急消防援助隊とし派遣		
10月	新潟県中越地震に緊急消防援助隊とし派遣		
【平成17年】			
7月	「3000時間航空無事故」達成		
12月	大月市笹子町 林野火災3日間活動（「あかふじ」計65回散水） 応援機：長野県・埼玉県・静岡県・東京消防庁・自衛隊・山梨県警察本部		
【平成18年】			
4月	超未熟児の双子を山梨県立中央病院から群馬県 小児医療センターに搬送		
6月・10月	エンジン（2基）オーバーホール実施		
【平成19年】			
7月	新潟県中越沖地震に緊急援助隊とし派遣		
9月	AED配備（レールダル FR2）		
11月	富士山9合目付近にて、軽装備で登山していた学生4名救助		
		【平成12年4月配属】	
4期		副隊長 梶原 一利（富士五湖） 副隊長 小澤 浩典（峡北） 隊員 植松 佳昭（峡南） 深沢 博（東山梨）	
		【平成13年4月配属】	
5期		副隊長 戸田 昭人（甲府地区） 隊員 後藤 健児（上野原） 中込 秀雄（南アルプス市）	
		【平成14年4月配属】	
6期		隊長 坂本 昌樹（甲府地区） 隊員 長田 明彦（富士五湖）	
		【平成15年4月配属】	
7期		副隊長 土屋 直也（峡北） 隊員 武藤 実（東山梨） 渡邊 亨（峡南）	
		【平成16年4月配属】	
8期		副隊長 高野 道宏（笛吹市） 隊員 山土井 光二（甲府地区） 小俣 貴史（大月市）	
		【平成17年4月配属】	
9期		隊長 宮下 光夫（甲府地区） 隊員 志村 直彦（富士五湖）	
		【平成18年4月配属】	
10期		副隊長 関口 拓治（東山梨） 隊員 藤森 茂樹（峡北） 久次米 大介（峡南）	
		【平成19年4月配属】	
11期		副隊長 浅野 浩一（南アルプス市） 隊員 望月 信介（甲府地区） 坂田 充（都留市）	

平成19年度 隊員研修

航空隊員1～2名を各種講習や研修に派遣し、全国の消防・防災航空隊の情報を共有し、山梨県消防防災航空隊のレベル向上を目的としています。

消防大学校 緊急消防援助隊教育科 航空隊 隊長コース	5日間：年1回（1名入校）
消防大学校 緊急消防援助隊教育科 航空隊 隊員コース	10日間：年2回（2名入校）
山岳遭難救助研修 A（富山県）	5日間 （1名参加）
全国消防救助シンポジウム（東京都）	1日 （1名参加）
陸上特殊無線技士講習会（東京都）	10日間：年3回（3名参加）
全国航空消防防災協議会第1回・第2回（福島県・奈良県）	2日間：年2回（4名参加）
新潟県消防防災航空隊に研修	2日間 （3名参加）

自隊訓練回数(4月～12月) 『自隊訓練とは』年間を通して、航空隊員や操縦士の技量向上のための訓練

救出救助訓練	86回	機長慣熟訓練	6回	地形慣熟訓練	3回	給水・散水訓練	8回
ヘリTV伝送訓練	8回	物資輸送訓練	2回	ナイトフライト訓練	2回	水難訓練	5回
合計119回							

過去の災害活動件数

年度	種別	火災	救急	救助	その他	合計
平成7年度		16件	1件	23件	4件	44件
平成8年度		6件	0件	23件	7件	36件
平成9年度		8件	0件	19件	7件	34件
平成10年度		1件	0件	20件	16件	37件
平成11年度		8件	4件	12件	8件	32件
平成12年度		5件	7件	14件	5件	31件
平成13年度		13件	8件	33件	0件	54件
平成14年度		6件	9件	38件	5件	58件
平成15年度		1件	12件	33件	2件	48件
平成16年度		7件	23件	28件	4件	62件
平成17年度		13件	17件	36件	4件	70件
平成18年度		3件	15件	35件	2件	55件
平成19年度(12月まで)		2件	14件	47件	1件	64件

合同訓練

今年度、県内消防本部と実施した合同訓練一覧です。年間を通して、各消防本部及び関係機関との各種連携訓練を実施しています。(平成20年1月までの訓練を掲載)

4月23日(月)	山岳救急救助訓練	峡北消防本部
4月25日(水)	緊急事態における初動措置及び負傷者搬送訓練	山梨県警察本部
5月20日(日)	山梨県水防訓練	山梨県
5月27日(日)	山梨県土砂災害に対する全国統一防災訓練	山梨県
6月29日(金)	給散水訓練	峡北消防本部
7月27日(金)	合同水難訓練	南アルプス市消防本部 峡北消防本部
7月31日(火)	富士五湖消防本部合同水難訓練	富士五湖消防本部
8月29日(水)	救急搬送訓練	笛吹市消防本部
9月1日(土)	山梨県総合防災訓練	山梨県
9月1日(土)	甲府市防災訓練	甲府市・甲府地区消防本部
9月27日(水)	隊員投入訓練	東山梨消防本部
9月28日(木)	隊員投入訓練	東山梨消防本部
10月2日(火)	救出救助訓練	都留市消防本部
11月11日(日)	山梨県地震防災訓練	山梨県
11月29日(木)	給散水訓練	笛吹市消防本部
12月7日(金)	高速道路における多数傷病者発生事故対応訓練	峡北消防本部
12月11日(火)	林野火災図上訓練	甲府地区消防本部
12月13日(木)	多数傷病者事故発生時の救出救護訓練	甲府地区消防本部
12月14日(金)	給散水訓練	峡北消防本部
1月8日(火)	富士五湖消防本部合同氷上訓練	富士五湖消防本部

県外での訓練参加活動

相互応援協定を締結している県との連携訓練や広域応援に備えての訓練も実施した。

9月2日(日)	八都県市合同訓練(埼玉県)
9月15日(土)	東京消防庁震災総合消防演習(東京都)
9月22日(土)	第3回北関東近県広域航空部隊合同訓練(茨城県)
10月21日(土)	平成19年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練(群馬県)
10月28日(日)	長野県総合防災訓練(長野県)
11月18日(日)	埼玉県山林火災防御訓練(埼玉県)

今後の合同訓練実施予定

平成20年1月現在

2月27日(水)	甲府地区消防本部(ヘリTV伝送・給散水訓練)
3月1日(土)	甲府地区消防本部(春の火災予防運動:給散水訓練)
3月3日(月)	都留市消防本部(給散水訓練)
3月11日(火)	峡南消防本部(救出救助・救急引継ぎ訓練)
3月12日(水)	峡南消防本部(救出救助・救急引継ぎ訓練)

= 県内合同訓練の内容紹介 =

「あかふじ」AED 搭載に伴う 峡北消防本部 合同山岳救急救助訓練

4月23日(月)山梨県消防防災航空隊清哲訓練場(韮崎市清哲町)にて、航空隊及び峡北消防本部合同訓練を実施した。今年度、航空隊に搭載予定の自動体外式除細動器(AED:レールダルフ



FR2)を使用し、急傾斜地で滑落した負傷者を地上救助隊がヘリピックアップポイントまで救出、

航空隊員に引き継ぐまでの連携訓練を行った。AEDの取り扱い及び引き渡しについて検証を行い、それぞれの立場から実施要領を確認し、9月に『あかふじによるAED運用』を開始した。

山梨県水防訓練

5月20日(日)市川三郷町で山梨県水防訓練が実施され、峡南消防本部救助隊と連携し、台風による河川の増水を想定し要救助者3名を救助する救出救助訓練に参加した。



による河川の増水を想定し要救助者3名を救助する救出救助訓練に参加した。

* 隊員2名が中州へ降下し要救助者2名を救出

峡北消防本部・南アルプス市消防本部 合同水難救助訓練

夏の行楽シーズンに備え

7月27日(金)一級河川の釜無川で、山梨県消防防災航空隊・峡北消防本部・南アルプス市消防本部による合同水難救助訓練を実施、川に流された要救助者を水中から「あかふじ」が救出後、救急隊に引き渡す訓練及び要救助者を地上救助



隊が救出し救急隊による観察・処置後「あかふじ」で3次医療機関に搬送する連携訓練等、

水難事故発生時に備え各本部との連携を強化した。

富士五湖消防本部合同訓練



7月31日(火)毎年、富士五湖消防本部管内の忍野村内で富士五湖水難救助隊と連携し、ホ

イスト降下及びエントリー(飛び込み)を行い、溺者救助を想定した合同訓練を実施した。

笛吹市消防本部合同訓練

11月29日(木)八代町ふるさと公園において、給水・散水訓練を実施した。消防職員・消防団が、バンビバケットにポンプ給水訓練を行った。



ヘリコプターの

特性である風(ダウンウォッシュ)と音を体験し、実災害に備え、連携を図った。

東山梨消防本部合同訓練

9月27・28日の2日間、山梨市広瀬湖公園場外離着陸場において、林野火災・山岳での救急・救助活動を想定した隊員投入訓練を実施。本訓練を前に航空隊基地において駐機訓練を行い、安全対策を図り、33名が降下訓練を行った。



航空隊員と消防隊員による同時降下訓練

都留市消防本部合同訓練

10月2日(火)に都留市消防本部と合同訓練を実施。山岳事故を想定し地上救助隊が救出後、「あかふじ」がピックアップ、場外の救急隊に引き渡す訓練を実施し連携を強化した。



山岳事故を想定し地上救助隊が救出後、「あかふじ」がピックアップ、場外の救急隊に引き渡す訓練を実施し連携を強化した。

山梨県地震防災訓練

11月11日(日)阪神淡路大震災・新潟県中越地震を教訓として、県、市町村、防災関係機関、自主防災組織等が緊密な連携を図り、速やかに災害応急対策が実施されるよう実践的訓練を行い県民並びに防災関係機関の防災意識の高揚を図るとともに、山梨県地域防災計画の円滑な運営に資することを



災害応急対策が実施されるよう実践的訓練を行い県民並びに防災関係機関の防災意識の高揚を図るとともに、山梨県地域防災計画の円滑な運営に資することを

目的に訓練を行った。航空消防隊は、「あかふじ」、東京消防庁航空隊、埼玉県防災航空隊の計3機が、集結訓練、自動車専用道路救出救助訓練及び孤立者救出救助訓練を実施した。特に新山梨環状道路を使用した自動車専用道路救出救助訓練は、今後予想される災害に対して、非常に参考となる訓練となった。

多数傷病者発生時の

救出救護訓練

12月13日(木)敷島総合公園にて合同訓練を実施。この訓練は、特殊な救急事故(多数傷病者事故)が発生した場合における甲府地区消防本部の救急業務の実実施計画に基づいて「スタート式トリアージ」を用いた救出救護訓練で、短時間内に最も効果的かつ適切な運用、トリアージ能力の向上及び医療機関との密接な連携体制を保持し、総合力をもって迅速かつ安全に傷病者の救出救護を図る目的で行われた。



「あかふじ」の活動は、応急救護所で処置された優先度(重傷者)2名と中等症者1名を三次医療機関へ搬送する訓練を行い、救急隊との傷病者引渡しの要領、消防隊員のヘリ誘導を周知することができました。

= 県外合同訓練内容紹介 =

東京消防庁震災総合消防演習

9月15日(土)東京都中央区晴海で東京消防庁震災総合消防演習が実施され、「あかふじ」も人員物資・DMAT隊搬送訓練に参加。幹線道路



の橋が落下する等陸路が寸断された想定でヘリコプター搬送を行う訓練を実施。

第3回北関東近県

広域航空部隊合同訓練

9月22日(土)茨城県那珂市で第3回北関東近県広域航空部隊合同訓練が実施され、救出救助訓練・救急搬送訓練・空中消火訓練に参加。5県の航空消防隊が参加し地元消防本部も含め、連携を深めた。

平成19年度緊急消防援助隊

関東ブロック合同訓練



今年度の緊急援助隊関東ブロック合同訓練は10月20日(土)21日(日)群馬

県前橋市にて開催されました。航空部隊はヘリが10機訓練参加し、「あかふじ」は重度傷病者搬送訓練、中高層物救出訓練を実施、緊急消防援助隊相互の円滑な連携強化が図れた。

長野県総合防災訓練

10月28日(日)長野県須坂市・小布施町に

て長野総合防災訓練が実施され、「あかふじ」は救援救急物資輸送調達・輸送訓練及び林野火災空中消火訓練に参加した。救援救急物資輸送調達・輸送訓練については、地震により孤立した地区で傷病者が発生した想定で、救援救急物資をヘリコプターで搬送した。



埼玉県山林火災防御訓練

11月18日(日)埼玉県横瀬町で第29回山林火災防御訓練が実施され、救出救助訓練に参加。5機の防災機が参加し地元消防本部との連携を深めた。

航空消防隊の有効活用

(1) 本要請から出場まで15～20分準備にかかります。情報・要請はできる限り早く詳しく連絡下さい。

【ヘリ出場までの準備内容】

事案に応じた燃料の増減 救急、救助、火災等の資器材積載
ヘリを安全に運航するための飛行前点検(約50箇所)

- (2) 広範囲におよぶ林野火災・多数傷病者事故などで広域・相互応援を他県ヘリに要請を行う場合、ヘリ現場到着まで非常に時間を要するため早めの決断を行い要請をお願いします。
- (3) 災害状況や気象状況によりヘリコプター単独では完結できない場合もあります。よって地上隊(消防隊・救助隊・救急隊)の同時出場をお願いします。

・ ・ 事例紹介 「迅速な対応事例」 ・ ・

今年度に発生した事案を紹介します。この事案は交通事故現場の直近にヘリコプターがホバリングし、道路上から傷病者をホイストでピックアップし三次医療機関へ搬送した事例です。

平成19年5月12日(土)

8時30分頃、北杜市須玉町穴平地区の「須玉大橋で橋脚に普通乗用車が衝突」との通報が峡北消防本部に入り、救急隊・救助隊が出動した。先着の救急隊が現場到着時、運転席に男性が挟まれた状態で高エネルギー外傷と判断、搬送時間短縮のため直ちに「あかふじ出動要請」を行った。

油圧救助資機材等で車外救出された時点であかふじは上空に待機していたため、付近道路に消防隊による安全員を配置し、バックボード固定された要救助者を降下した隊員がパーティカルストレッチャーに縛着し、吊り上げ救出、機内収容を行い搬送、県立中央病院屋上ヘリポートで救急救命センタースタッフに要救助者を引き継ぎました。この事案は救急隊の迅速・的確な判断であかふじが有効活用された事例である。地上搬送では3次医療機関まで「30分以上」を要したところであるが、空路搬送で「7分」に短縮できたことは重篤な状態であった傷病者にとって最善の対応であったものと思われる。

